

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立昭栄中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う	86.3%	86.1%
将来の夢や目標を持っている	71.3%	67.5%
自分には、よいところがあると思う	86.3%	86.2%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	83.2%	84.7%

「将来の夢や目標を持っている」の項目では、全国平均よりも高い結果が出ています。

「学校に行くのは楽しいと思う」「自分には、よいところがあると思う」の項目は、全国平均とほぼ同じ結果でした。

「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の項目は、全国平均より低い結果でした。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	3.8%	9.9%
「2時間以上、3時間より少ない」	8.8%	20.9%
「1時間以上、2時間より少ない」	32.5%	30.8%
「30分以上、1時間より少ない」	28.1%	19.1%
「30分より少ない」	15.6%	11.3%
「全くしない」	10.6%	7.7%

家庭学習については、3割の生徒が「1時間以上、2時間より少ない」と回答しています。また、「全くしない」を含め、半数以上の生徒が1時間未満でした。

(2)改善に向けての取り組み

【学校では】

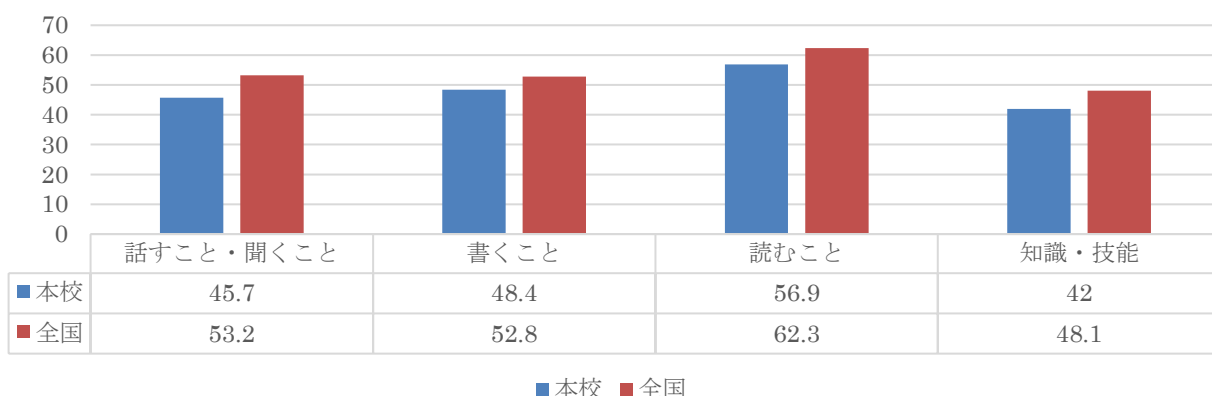
- 生徒の主体性を育むために、授業では、協働的な学びを意識した活動を取り入れ、めあてや学習の流れの提示を行い、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにします。
- 探究的な学びを通して、課題解決のために自分に合う学び方やペースを選択できるように取り組み、自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力を育みます。
- 学年、学校行事においては、生徒の出番や役割を任せ、対話を通して、互いを知り、認め合う力を育んでいきます。

【ご家庭では】

- 自分で目標を設定し、学習計画を立て、達成するために必要な行動を自分で決めることにより、自己管理能力や問題解決能力を養うことができます。また、自分の興味や関心のある分野を深く探究したり、新しい知識を身につける楽しさ、新しい価値に気づく楽しさを知ったりすることができます。
- 佐賀県教育委員会「家庭学習の手引き」の学習時間の目安や、学習の進め方を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

2 国 語

全国平均正答率との比較（中学校国語）



(1) 結 果

全体の正答率は、全国平均に比べてかなり低く、14問中1問だけ全国と同じ正答率の問題があっただけで、他はすべて低い結果となりました。知識及び技能分類の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、思考力、判断力、表現力等分類の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」も低く、問題形式では、「記述式」の正答率がかなり低い結果となっていました。

(2) 成果と課題

全体的な正答率の低さ、特に記述式問題や各領域における全国平均との大きな差は、早急な対策が必要であると考えています。そのため3つの方法①基礎的知識・技能の徹底強化②思考力・判断力・表現力の育成③個に応じた指導の充実)で対応したいと考えています。(以下参照)

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

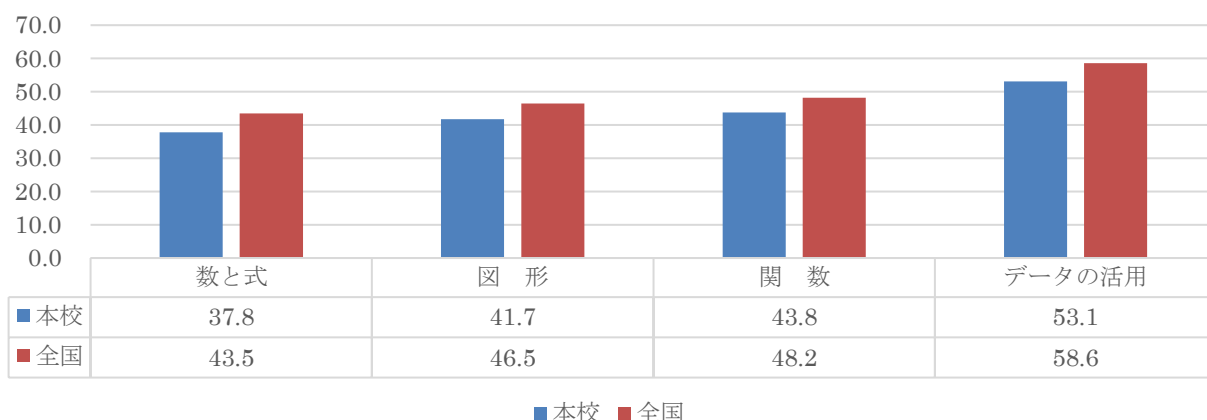
- 基礎的知識・技能の定着のため、各学年で習得すべき語彙や文法事項を明確にして、計画的・反復的に学習する時間を確保します。
- ペアやグループ活動等を充実し、意見交換や討論の機会を増やし、自分の考えを論理的に説明する力、相手の意見を傾聴し理解する力を養います。
- 記述式問題への系統的指導を行います。一文で答える練習から始め、徐々に複数文で構成する短文記述、要約へとステップアップしていきます。
- 読解スキルの指導を行います。段落の中心文を見つける練習や文章の論理的なつながりを把握するために接続詞や指示語の役割を意識させます。また文章全体の大意や重要なポイントを短くまとめる練習を繰り返し行います。
- 国語を苦手としている生徒をサポートするために、個別に声をかけて補習等を行います。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしてください。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることにもつながります。
- 読書を大切にしてください。文学・科学・歴史・地理・芸術…様々な分野の本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、「読む」ことを楽しめるようになります。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子様の読書習慣をつける上でおすすめです。

3 数学

全国平均正答率との比較（中学校数学）



(1) 結 果

領域別で見ると、すべての領域で全国平均正答率を下回っていました。また、無回答率は全国平均無回答率を上回っていました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数と計算」の領域の、素数の意味を理解しているかどうかをみる問題の正答率が全国平均正答率を下回っていましたが、県の平均正答率を大きく上回っていました。「C 関数」の領域の事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかを見る問題や「D データの活用」領域の必ず起こる事柄の確立について理解しているかどうかを見る問題において、正答率が全国、県共に下回っていました。今後、数学用語の理解や類似問題への取り組みを通して、問題の内容を正しく読み取り理解することができるようにすることが重要であると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

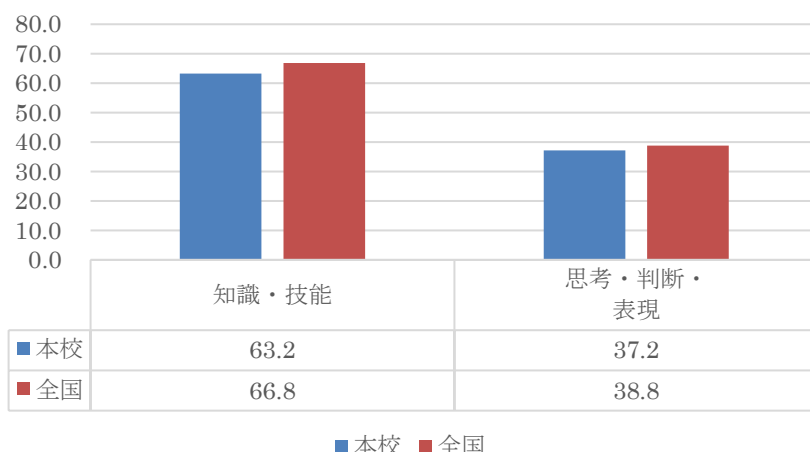
- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、具体例を示すことで生活場面を想起させたりしながら、式や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 数学用語の理解だけでなく、その用語を活用し問題解決につなげられるようにしていくとともに、様々な見方や考え方ができるように、話し合う活動を取り入れ自分の考えを、式や言葉を使って説明する機会を増やすようにします。

【ご家庭では】

- お子様のワークやプリント、テスト等をご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 学校で学んだことをしっかり復習する習慣を身に着けることが大切です。授業で取り組んだ問題を家で復習し、何も見ずに自分で解けるようになるまで繰り返し取り組みましょう。
- 苦手な単元を特定することが大切です。テストや日々の演習で間違えた問題などから苦手な単元を明確にし、繰り返し解くと理解が深まります。

4 理科

全国平均正答率との比較（中学校理科）



(1) 結果

今回の調査は、CBT方式（コンピュータを使って、オンラインでテストをすること）で行われました。設問ごとに見ると全国平均を上回っている問題もありましたが、観点別ではどの観点においても、全国平均を下回りました。また、考察等の記述式では、未入力が設問によっては全国平均を大きく上回る問題もみられました。意識調査では、「理科が好きである。」「理科が得意である。」という生徒が、全国平均を大きく上回っていました。

(2) 成果と課題

今回の調査は、条件にあった実験装置を選択する問題や実験をする際の注意点に関する問題などにおいて、全国平均を上回る結果となりました。また、意識調査では「理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか」や「理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか」という設問にあてはまると回答した割合は、全国平均を4ポイント以上上回る結果となっており、生徒が授業の中で積極的に観察・実験を行い、観察・実験の意義や方法を理解していると考えられます。しかしながら、結果でも述べたように全国平均より観点別正答率が低かった点や「記述式」の未入力が多かった点などの課題が見られました。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 「観察・実験」を中心とした「探究的な学び」を重視し、科学的に調べる能力と態度を育成します。
- ICTの活用により実験の可視化やデータの共有を行い、実社会との関連を深めるための体験を取り入れ、生徒が主体的に問題解決に取り組む機会を増やします。

【ご家庭では】

- 身の回りの現象を観察したり、科学館や博物館に行ったりする体験学習が効果的です。また、理科の本や動画を積極的に活用し、学んだことを深掘りすることも重要です。
- 定期テストの復習を通じて知識の定着を図ることも家庭での取り組みとして有効です。
- わからない部分があれば、教科書やノートを見返し、疑問を解決する習慣を身に付けさせることが大切です。